

# 農環研を取り巻く環境

## Environment around NIAES

### 敷地利用

農環研（旧：農業技術研究所）が建設された当時は、国土交通省（旧：建設省）が定めた「筑波研究学園都市一団地の官公庁施設建設計画標準」に基づき、建物や敷地などの計画に従って配置されました。

2001年4月に独立行政法人となった現在でも基本的な運用については同建設計画標準を参考として、敷地内の緑地の確保に努めています。

敷地および緑地面積

区分	面積 (m <sup>2</sup> )	備考
敷地総面積	569,752	
建物敷地	40,899	
緑地面積*	165,450	
水田	42,950	
畑	149,670	
その他	170,783	防風林・構内道路など

\* 緑地面積には、水田、畑、防風林の面積は含みません。



農環研の航空写真

また、これらの緑地は、土壌生成調査実験圃場や生態保存林として、農業環境に関わる調査・研究に利用されています。



土壌生成調査実験圃場

### 樹木の種類

農環研の敷地には、サクラ、ケヤキ、サルスベリ、ハナミズキ、カラマツ、サザンカなど、38種 2,238本の樹木が植えられて、景観保全や大気浄化などに役だっています。



サクラ



ケヤキ



サルスベリ



ハナミズキ